

CMI 株式会社

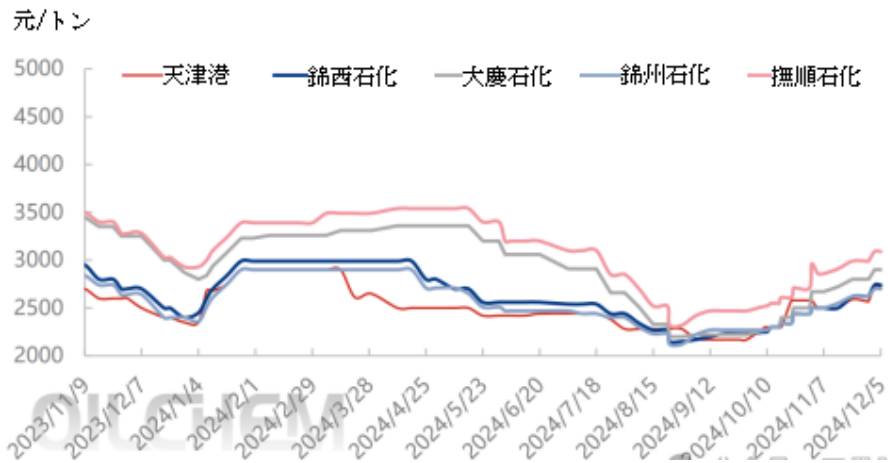
横浜市鶴見区東寺尾中台20～3,301

TEL: 045～717～8575 FAX: 045～717～8683

中国負極材・原料の市場動向

このほど、負極材料用の低硫黄分石油コークスの価格が上昇し続けており、12月は今年の最低価格より40%余り上昇した。

12月10日現在、撫順石化の石油コークス価格は250元値上げの3,420元/トン（約7.20万円/トン、1元≒21.06円、以下同）、大慶石化は250元値上げの3,250元/トン（6.84万円/トン）、錦州石化は250元値上げの3,030元/トン（6.38万円/トン）、吉林石化は250元値上げの2,800元/トン（5.90万円/トン）であった。



出典：石墨盟

図1. 低硫黄分石油コークスの価格推移（2023年11月～2024年12月）

石油コークスの価格上昇の主な原因としては、下記三つが挙げられる。

- 下流側の大手負極材企業の一部はフル稼働又はフル稼働に近い稼働率で生産することに加え、年末を控えて原料在庫を確保するために石油コークスを積極的に購入している。
- 黒鉛電極市場が安定的に推移し、低硫黄分石油コークスの需要がやや増えている。
- 石油コークス工場の製品在庫が低水準である。そのうえ海外からの石油コークス輸送船の入港数が減少し、特に負極材用低硫黄分石油コークスの輸入量は減少し続けている。

石油コークスの価格上昇を受け負極材のコストが高くなり、利益が低下している。負極材企業は経営改善のため、より低価格の石油コークスの購買意欲が高くなっている。表1は10月末と11月末現在の人造黒鉛負極材と原料価格の比較を示している。

CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20~3,301

TEL: 045~717~8575 FAX: 045~717~8683

表 1. 人造黒鉛負極材と原料価格の比較

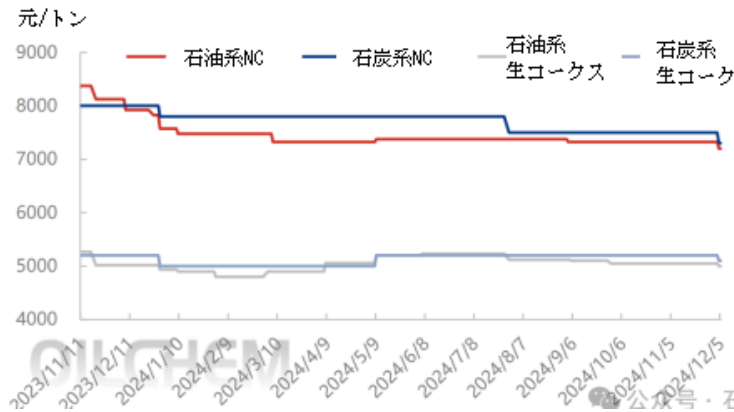
製品別	10月31日 (元/トン)	11月28日 (元/トン)	上昇率
人造黒鉛負極材	22,000	22,000	0.00%
黒鉛化加工費	8,500	8,500	0.00%
低硫黄分石油コークス	2,345	2,640	12.58%
石油系生コークス	5,050	5,050	0.00%



出典：石墨盟

図 2. 人造黒鉛負極材の利益と価格推移 (2023年6月~2024年10月)

石油コークスの価格が上昇する一方、負極材原料のニードルコークス価格が安定的に推移している。



出典：石墨盟

図 3. NC の価格推移 (2023年11月~2024年12月)

CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20~3,301

TEL: 045~717~8575 FAX: 045~717~8683

負極材産業は動力電池市場の伸びによって需要が増加し、価格が安定している。その一方、原料の価格高騰をうけ、一部規格の負極材製品のコストが出荷価格を上回るため、企業経営の低迷につながっている。また、リチウムイオン電池企業がコストを抑えるために、負極材の仕入れ価格を低く抑えている。

今後、コスト削減と効率向上は負極材企業の存続に係わる重要な課題となるだろう。

情報源：石墨盟